

講義名	オ)国際関係論【人間社会学部】			
担当教員	村上 友章			
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 2時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要				
<p>【目的】 この授業は国際政治に関わる基本的な知識・理論を習得し、それらを用いて現代世界の諸問題を考察する能力を養うことを目的とする。</p> <p>【内容】 オンデマンド授業の本授業は、講義動画をYouTubeの限定公開を通じて配信する。 この授業では、三つのパートによって講義を進めていく。第一部「国際関係の理論」では、国際関係学に関わる代表的な三つの理論群について紹介・説明する。第二部「国際関係の歴史」では、近代以降の国際関係の歴史を概観しながら、それらの理論が、歴史的な現実をたいてどのようにアプローチし、またどのような理論的發展を遂げてきたのかを解説していく。最後に第三部では、今日の国際社会が直面している政治的・経済的諸問題について考察する。</p> <p>【意義】 私たちの暮らしと密接な関係にある国際関係の変化を理解し、それについて深い洞察を示すことを目指す。こうした本授業の目的・内容は、まさに「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソンを育成する」という本学ディプロマポリシーに合致するものである。</p>				
到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 国際関係学の代表的な理論を学ぶことで、国際関係を動かすメカニズムや要因についてのさまざまな見方を理解できるようになる。 国際関係の歴史についての基本的な知識を習得できるようになる。 現代の国際社会が直面するさまざまな問題について広範な知識をもって理解し、その解決策について自分なりの見解を説明することができるようになる。 以上の諸点を通じて、受講生は、本学のディプロマポリシーが掲げる資質・能力（「論理的思考力」「課題発見力」「構想力」「ビジネスパーソンとしての基礎能力」等）を習得できるようになる。 				
提出課題				
<p>【毎回の予習・復習レポート】 基本的に毎回、予習として教科書の該当箇所を読み、あらかじめ指示された演習問題を解き、それらをレスポンスを通じて提出する。また授業後は復習問題にも取り組み、レスポンスを通じて提出する。</p> <p>【学期末レポート】 学期末には、授業で学んだ国際関係の知識や諸理論を用いて、世界の諸問題を考察する期末レポートを課す（1000文字以上）</p>				

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック				
<ul style="list-style-type: none"> 毎回の予習・復習課題については、講義動画にて解説を行う。 				
評価の基準				
<p>・評価は、予習・復習レポート（50%）と学期末レポート（50%）を合算して行なう。教科書および講義で説明された内容が正確に理解できているかどうか、そのうえで自分なりの立場や見解が論理的に説明できているかどうか、評価の基準となる。</p>				
履修にあたっての注意・助言他				
<ul style="list-style-type: none"> 「政治学」の授業をあらかじめ履修しておくことを強く推奨する。 本授業は教科書を用いた予習・復習を毎回、課す。そのため教科書は必ず手元になければならない。 教科書の内容は講義動画にて解説するので、本を読むのが苦手な学生も、予習・復習を粘り強く続ければ読解力は身に付くだろう。他方、教科書で予習・復習をする覚悟の無い学生には、この授業は意味がない。 				

教科書				
.戦争の条件.	藤原陽一	集英社	880	978-4087206869
.地図で読む「国際関係」入門.	眞淳平	筑摩書房	990	978-4480689436

プリント資料及び参考文献				
<ul style="list-style-type: none"> 授業ごとに必要に応じてポータル等を通じて資料を配布する。 				

授業計画				
<p>国際関係の理論</p> <p>第1回：イットロダクション 領土問題から見えてくる国際関係</p> <p>第2回：リアリズムと「力の均衡」論</p> <p>第3回：相互依存と多元主義</p> <p>第4回：帝国主義と世界システム論</p> <p>国際関係の歴史</p> <p>第5回：主権国家と国際システム成立</p> <p>第6回：バクス・ブリタニカの時代 自由貿易の帝国主義</p> <p>第7回：列強帝国主義による世界の分断</p> <p>第8回：二つの世界大戦から冷戦へ</p> <p>第9回：終結と論争「冷い平和」</p> <p>第10回：第三世界の諸問題 乱開発と「熱い戦争」</p> <p>第11回：アメリカの衰退とそれをめぐる論争</p> <p>第12回：グローバル化と対立と終焉</p> <p>現代国際政治の諸問題</p> <p>第13回：地域的統合と「主権」概念の変容</p> <p>第14回：現代の戦争 経済紛争と対立と終焉</p> <p>第15回：グローバル化と終焉のなかでの貧困問題</p> <p>定期試験</p>				

授業形態（アクティブ・ラーニング）				
	ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/>	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク	
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク	
	キ：その他（A.L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）			

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
<ul style="list-style-type: none"> 毎回の提出課題である「予習・復習レポート」の作成に毎週4時間程度を要する。 予習・復習レポートの教科書参照箇所や演習問題は、講義動画やPortalを通じて指示する。 				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
<p>（1）本授業の目的・内容は、以下の本学のディプロマポリシーに大きく貢献できる。 【発達科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力】 「学びかたのびへこたえず」の精神を持った人材 知識を知恵に転換することができる。論理的思考力を持った人材 創造力 新しい視点と豊かな発想を持った人材 自主・自立の精神を持った人材 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材</p> <p>（2）本授業の目的・内容は、以下の人間社会学部のディプロマポリシーに大きく貢献できる。 【人間社会学科・共通】社会の仕組みや働き、日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる。</p>				

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
<ul style="list-style-type: none"> クリックカー（レスポンス）を用いて、予習・復習レポートおよび学期末レポートを課す。 クリックカー（レスポンス）を用いて、質疑応答やアンケートを行う。 				
実務経験の有無及び活用				

備考				
<ul style="list-style-type: none"> 履修生のリクエスト等に応じて、授業計画は柔軟に変更することもありうる。 				

備考				
<ul style="list-style-type: none"> 履修生のリクエスト等に応じて、授業計画は柔軟に変更することもありうる。 				